

平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	研究ゼミナールB (Seminar of Study B)		授業コード	P170283
担当教員名	星芝 貴行		科目ナンバリングコード	P31702
配当学年	3	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件				
受講心得				
教科書				
参考文献及び指定図書	(書籍) 「音楽の正体」 著者: 渡辺健一 出版社: ヤマハミュージックメディア ISBN: 978-4636208788			
関連科目	ゼミナールA、卒業研究研究			

授業の目的	研究室のテーマは、コンピュータミュージックにおける「資格(License)」と「制作(Creative)」と「研究(Research)」です。コンピュータミュージックの分野の制作や研究を行うにあたって必要となる基礎的能力を習得することを目標としています。コンピュータミュージック・デジタルサウンドでの、「知識習得」・「作品制作」・「研究開発」を目指し、人が奏でた音楽で人が感動するように、「コンピュータが奏でた音楽で人は感動できるか？」を主にテーマとしています。
授業の概要	星芝研究室では、次のようなテーマの卒業研究に取り組みます。 <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータミュージックの作品制作 ・楽器演奏のコンピュータによるリアルなシミュレーション ・コンピュータによる歌唱・音声処理 または 楽器音処理・騒音処理 ・コンピュータによる音楽情報処理 など この授業では就職活動を含め、上記の卒業研究のための準備を含む学習を行っていきます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：音楽作品の分析について(1) 参考文献の「音楽の正体」を使用し、音楽作品の分析の方法について学びます。各自が1つの章を担当し、その内容を理解し、プレゼンテーションできるよう準備をします。	参考資料
第2週：音楽作品の分析について(2) 先週に引き続き、担当した章を理解し、プレゼンテーションの準備を行います。	参考資料
第3週：音楽作品の分析について(3) 先週に引き続き、担当した章を理解し、プレゼンテーションの準備を行います。	参考資料
第4週：音楽作品の分析について(4) 先週に引き続き、担当した章を理解し、プレゼンテーションの準備を行います。	参考資料
第5週：音楽作品の分析について(5) 先週に引き続き、担当した章を理解し、プレゼンテーションの準備を行います。	参考資料
第6週：音楽作品の分析について(6) 先週に引き続き、担当した章を理解し、プレゼンテーションの準備を行います。	参考資料

第7週：音楽作品の分析について(7)		
先週に引き続き、担当した章を理解し、プレゼンテーションの準備を行います。		参考資料
第8週：音楽作品の分析について(8)		
担当した章のプレゼンテーションを行います。相互で質疑応答も行います。		参考資料
第9週：音楽をテーマとした映像作品の鑑賞(1)		
音楽をテーマとした映像作品、音楽の効果を上手く利用している映像作品の鑑賞を行います。		
第10週：音楽をテーマとした映像作品の鑑賞(2)		
音楽をテーマとした映像作品、音楽の効果を上手く利用している映像作品の鑑賞を行います。		
第11週：音楽をテーマとした映像作品の鑑賞(3)		
音楽をテーマとした映像作品、音楽の効果を上手く利用している映像作品の鑑賞を行います。		
第12週：卒業研究テーマの決定のための調査(1)		
4年次の卒業研究のテーマについて決定するための調査を行います。		参考資料
第13週：卒業研究テーマの決定のための調査(2)		
先週に引き続き、調査を行います。		参考資料
第14週：卒業研究テーマの決定のための調査(3)		
先週に引き続き、調査を行います。		参考資料
第15週：卒業研究テーマの決定のための調査(4)		
決定した卒業研究のテーマについて、研究室内でプレゼンテーションを行い、相互に意見交換を行います。		参考資料
第16週：		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	積極的に課題の制作や実習に取り組むことができる。
【知識・理解】	日進月歩なコンピュータミュージックの新しい知識を理解できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	制作した作品についてPRができる。
【思考・判断・創造】	これまでの知識を応用して作品を制作できる。

○成績評価基準(合計100点)	合計欄	100点
------------------------	------------	-------------

到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			30点
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		20点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		30点	
(「人間力」について) ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。			

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	[Sレベル]到達目標を満たしている。 [Aレベル]到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]到達目標を一部満たしている。
発表・その他 (無形成果)	欠席、遅刻を含めた受講態度を評価します。